

私は生まれつきから耳が聴こえません。ずっと音のない世界にいる感じです。

幼少期から野球をやって、社会人になってからは耳が聴こえない仲間を集って全国ろう野球大会の常連チームになったくらい 野球の虫であった私が、なぜアルピニストになったのか、本当に考えられないのです。きっかけは、私と同じ兵庫県民である加藤文太郎の『孤高の人』という本を読んで山に対する興味を開眼したのではないかと思います。加藤文太郎を憧れても仕方がないので、登山を自分でやってみたくて単独で六甲山へ何回も登りました。野球で鍛えてきた体力のおかげで、1年もかからず、六甲全山縦走を挑戦し、完踏することができました。

いざ日本アルプスへ目指すと思ったら、アルパインの知識と技術がまったくなかったので、インターネットで見つけた大阪府勤労者山岳連盟と大阪たつの子勤労者山岳会に入らせていただきました。大阪労山とたつの子労山の先輩たちにアルパイン技術とノウハウを教えてもらったり、遭難事例などの本を読んで疑似体験を研究したりしました。このおかげで日本アルプスへ行けるようになり、経験を積み上げた後、念願だった加藤文太郎の遭難の地である北鎌尾根バリケーション単独登攀を果たせました。また、ロングトレイルに歩くことがとても得意で、今までに大峰奥駆道縦走と高島トレイルスルーハイクと南アルプス全山縦走を踏破しました。私の夢は、日本アルプス縦断と、JMT（ジョン・ミューア・トレイル）を踏破することです。

聴こえない私が山で登るときの悩みは何か？音が聴こえないから山のリスクがたくさんあります。また、後ろから声をかけても気付かなくて相手に「無視」という誤解させたりしたこともあります。これらの悩みを克服するためには、目視で周りを確認したり、相手から合図をしたりして、相手に互いに協力し合えば、山のリスクを減らすことができます。

十数年前に白馬大雪渓へ行ったとき、タクシーに乗って運転手に筆談しまして、大雪渓では石が転がってくるときに音をしないから危ないので、運転手に「3~5歩ずつに歩いて前方に見上げろ」と言われました。運転手が、音をしない場合はどうするか、自分の経験を活かして聴者もろう者も対等にアドバイスをしている姿を見て感動した記憶をしています。ほかにも、雷の音とか、沢流の音とか、落石と雪崩などの危険な箇所の状況までに教えてもらった聴者がたくさんいました。山を愛する仲間たちに助けてもらって本当に感謝しています。

聴覚障がいはいは、私のような同じ障がいではないのです。十人十色のように、それぞれの聴覚障がいの具合によってコミュニケーション手段が少し違います。だから、聴覚障がいに対する理解を幅広く深めておくことが大事であると思います。

今度の11月23日（祝）に聴覚障がい者と聴者がハイキングを楽しみながら、語り合い、助け合いながら交流を深めることを目的とした企画で、春日山原始林と滝坂道と若草山に歩くハイキング計画を立てました。山で困った様子を見て、自分が何かできるか、お互いに助け合いながら山を愉しんで頂けたら・・・とっております。

労山会員の皆様は、ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。